



**鷹尾神社 大和町鷹ノ尾 (MAP 1-⑨)**

鷹尾神社は、平安時代の貞観11(869)年の創建と伝えられる南筑後数社の社で、応神天皇・仲哀天皇・神功皇后を祭神とし、古くから瀬高下庄の鎮守だった歴史ある神社です。その古い歴史を物語るように、境内には、神功皇后が鷹尾に上陸されたときに腰掛けられたという腰掛石や藤原氏の守護神「牛の宮」など、多くの文化財・史跡が残されています。石造りの鳥居は藩主立花鑑虎によって寄進されたものといわれています。また、「鷹尾神社大宮司家文書」は、地方社寺における舞楽や神楽の実態を具体的に伝える史料として高く評価されており、国の重要文化財に指定されています。



**棚倉稲荷神社 京町 (MAP 2-②)**

京町の商店街の中にある棚倉稲荷神社は、数々の戦勝・庇護をもたらす神として、戸次道雪以来代々立花家で厚く信仰された稲荷明神が祀られています。立花宗茂が福島県棚倉の領主であった時も、向地で祀られたことから「棚倉神社」と称されました。2代藩主忠茂のときに柳川城から現在地に勧請されたようです。商店街の通りからは、かわいらしい形の橋をのぞき見ることができます。



**天満神社 出来町 (MAP 2-③)**

細工町通りを南向きに進むと、真正面の突き当たりに立派な楼門を構える天満神社があります。この神社に残されている奏楽天と龍の天井絵は、藩の御用絵師で同じ出来町に住んでいたといわれる仙蝶斎素峰の作です。



**三柱神社 三橋町高畑 (MAP 2-④)**

三柱神社は、文政9(1826)年、9代藩主鑑賢(あきかた)の創建によるもので、戸次道雪、立花宗茂、間千代姫を祀り、社名もこれに由来しています。藩政時代は流鏑馬が行なわれていた長い参道には中央に松並木、左右に吉野桜を配し、参道の北側に御影石の大鳥居、左に心字の池があり、うっそうとした楠の巨樹の奥に楼門が建っていました。楼門は日光東照宮の陽明門、廻廊は安芸の厳島神社を模して建造されたものといわれ、江戸後期の柳川地方を代表する建築物でしたが、平成17(2005)年に残念ながら大部分が焼失してしまいました。境内に入る欄干橋の擬宝珠(ぎぼし)は、柳川城三の丸前の橋のものを移したといわれており、現存するものが少ない柳川城の資料としても貴重です。境内は柳川地方随一の広さを誇り、横綱・雲龍が奉納した燈籠や柳川藩国学師範西原晁樹の碑など多くの石造物や記念碑があります。



**二宮神社 稲荷町 (MAP 2-⑤)**

肥前の龍造寺氏に滅ぼされた浦池氏の霊を慰めるために建てられたといわれている神社です。境内には、近代につくられた浦島太郎と亀や鶴の像など海辺の町らしい珍しい石像が残っています。また、門前から伸びる細い路地と緊密に家が立ち並ぶ様子からも、古くからの漁師町の雰囲気を感じられます。



**矢留の大神宮 矢留本町 (MAP 2-⑥)**

矢留の大神宮は沖端の氏神様ですが、この地に伝わる六騎の物語とも深い関係があります。沖端の漁師さんのことを「六騎」と呼ぶことがありますが、これは、源氏の追手から逃れた6人の平家の落ち武者「六騎」が沖端にたどり着き、漁師をはじめたのがこの地の漁師の起源とされていることによります。その「六騎」が伊勢の大神宮を参拝し、持ち帰った鑑を御神体として祀り、地元の氏神様としたのが、矢留の大神宮だといわれています。参道の両側には掘割があり、その掘割で手を洗い清めるために大きな手水舎も設けられています。



**島田天満宮 三橋町白鳥 (MAP 1-⑩)**

享保年間(1716~1735)に太宰府天満宮から分祀されたといわれ、古くからけいれん、ひきつけなどにご利益があるとして名高い神社で、かつては大祭のときに臨時列車が出るほど多くの参拝客があつたといわれています。また、境内のチシャノキは神木として石柵で囲われ守られてきた貴重な木で、5月には真っ白い房状の花が樹冠を覆います。県内でも数少ないチシャノキの古木です。



**海童神社 大和町皿垣開 (MAP 1-⑪)**

干拓の歴史を物語るように、市内の干拓地には海童神社や龍神宮といった海を鎮める神を祀ったところが多くあります。その中でも、皿垣開甲木の海童神社には、当地出身の第10代横綱・雲龍久吉に関する史跡が残されています。神社の石燈籠や少し離れたところにある石の鳥居は雲龍が奉納したものといわれ、故郷への回帰心が強く、また信心深い雲龍の人柄が偲ばれます。また、青年時代の雲龍が矢留川から天秤に担いで持ち帰ったという「力石」や顕彰碑もあります。